

キャリアや就転職の総合研究



# Job 総研

「働く女性編」

## 「働く女性とコロナ禍の関連調査」

# 調査の背景

新型コロナウイルスが発症してから1年半が経過し、昨今では新しいライフスタイルが定着しつつある社会情勢の中、2020年11月の内閣府男女共同参画局が発表したデータによると、新型コロナウイルス蔓延による初の緊急事態宣言が発令された2020年4月に、日本の雇用者数が106万人減少したと公開しました。

特に女性の減少は74万人と顕著で、「女性不況の様相が確認される」と発表しています。このような社会情勢を受けてJob総研では、働く女性のコロナ禍に関連する影響を調査するに至りました。

# 調査概要

調査地域 : 全国

調査対象者 : 全国/女性/20～69歳

条件 : 1年以内～10年以上働いている女性社会人  
20人～1000人以上の規模の会社に所属

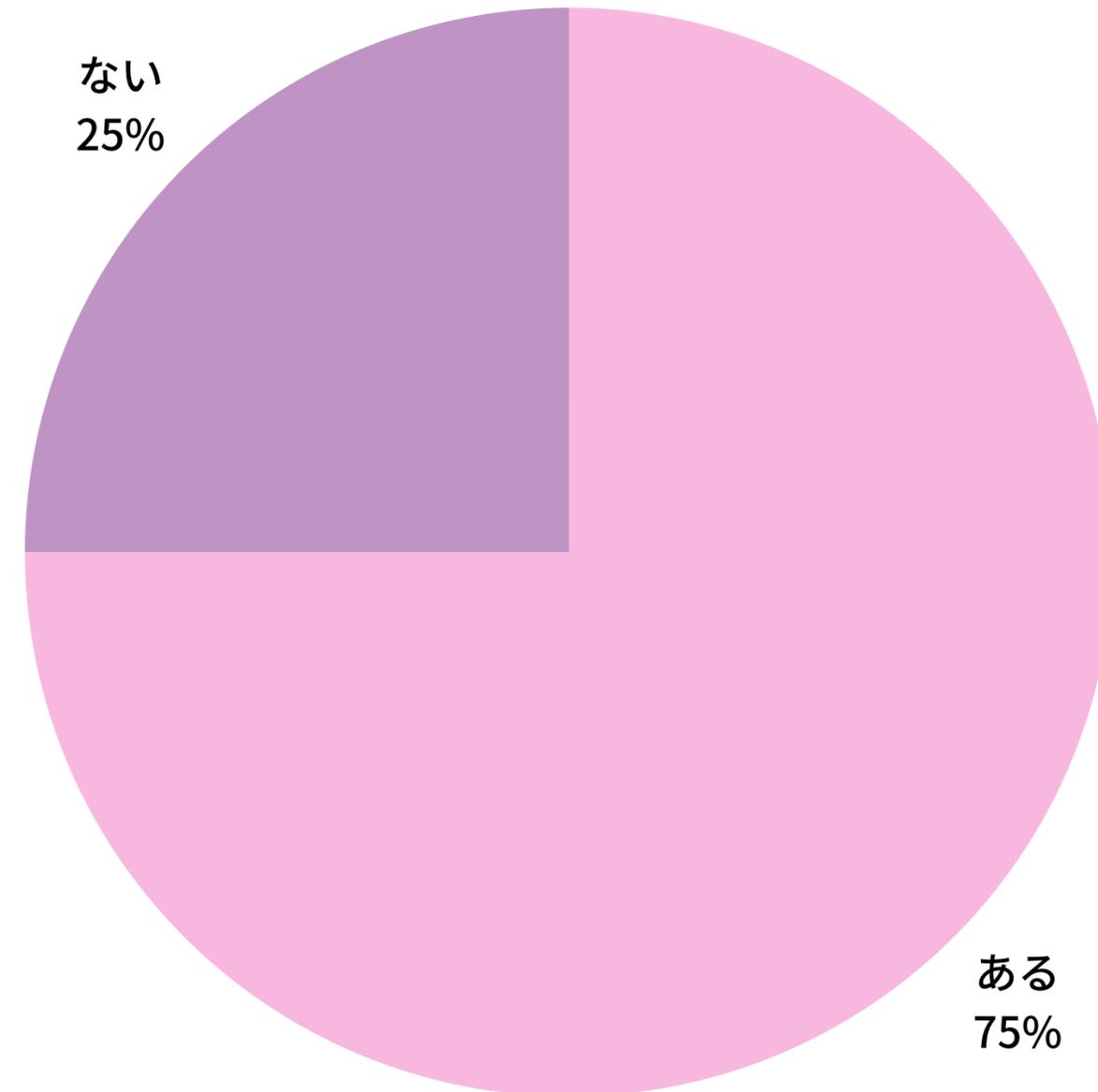
サンプル数 : 260

調査期間 : 2021/06/25～2021/07/7

# TOPICS

- ・ コロナ禍による雇用への影響は勤続3年以内が67.1%
- ・ コロナ禍による雇用への影響を受けた業界はサービス産業が顕著
- ・ 半数以上が雇用形態の変化をポジティブに受け止めている
- ・ ネガティブに捉えた回答者のうち半数が解雇などの離職が理由
- ・ 雇用変化があった回答者のうち70%が雇用変化によって鬱をはじめとするメンタルヘルスに影響
- ・ 雇用形態の変化があった女性の中で、結婚されている人は全体の4割

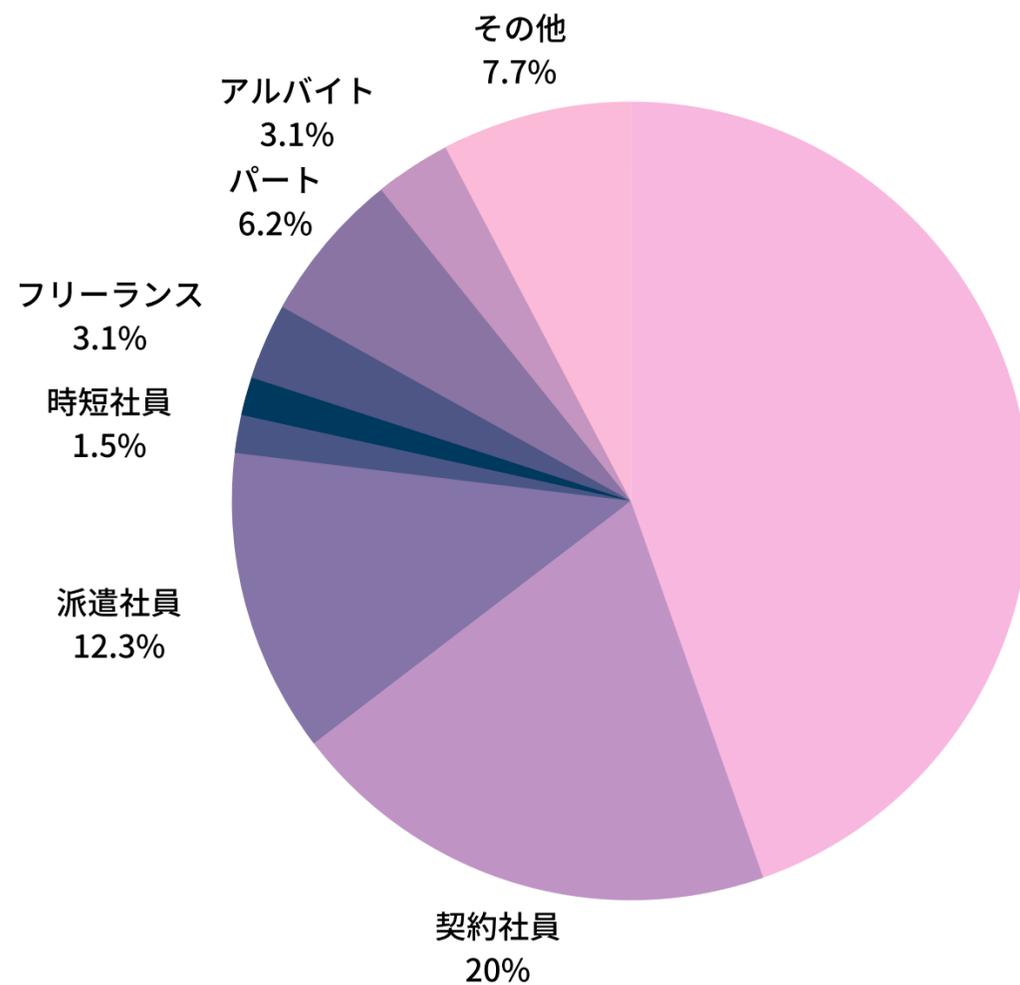
# Q1.コロナ禍において雇用形態に変化はありましたか



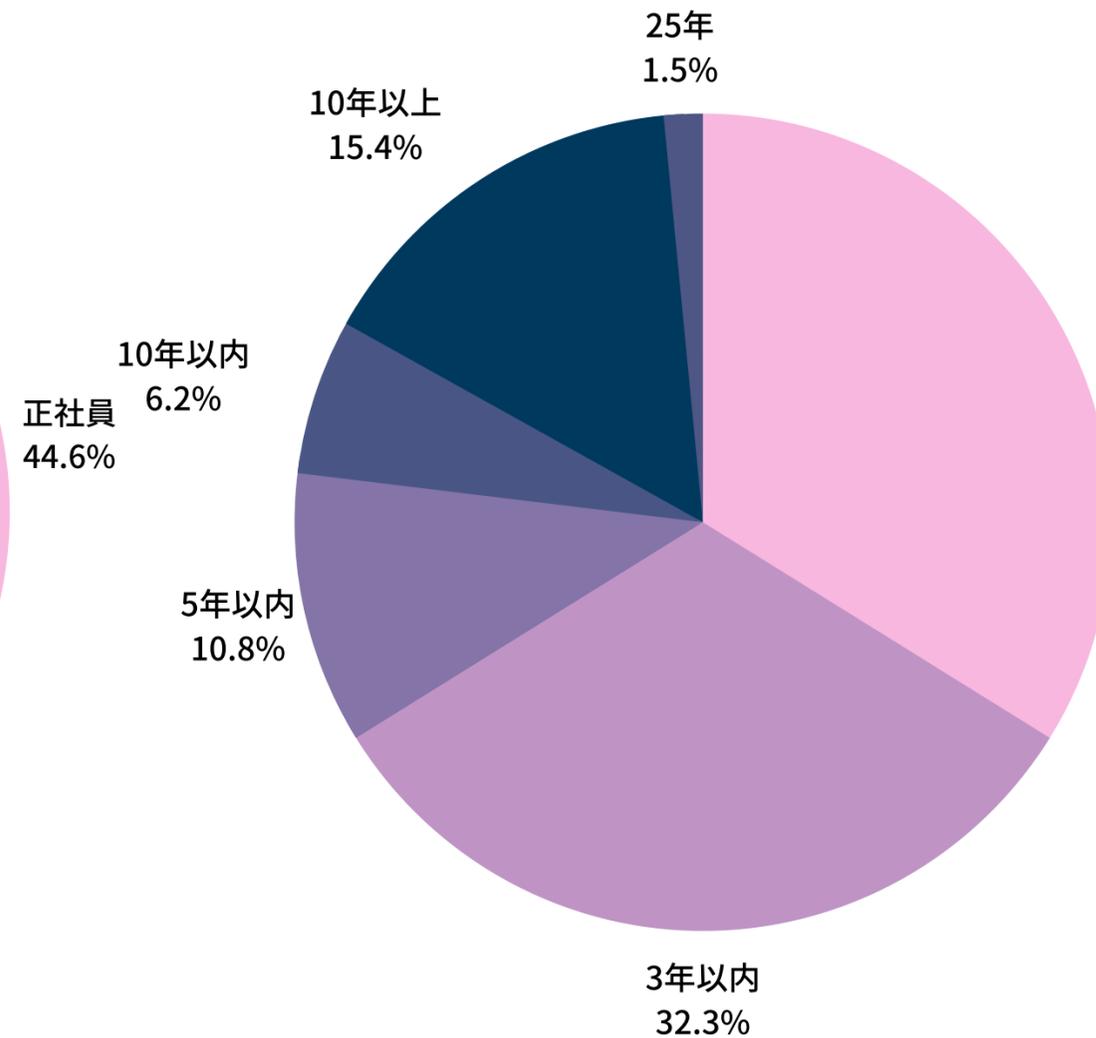
コロナ禍が影響する雇用形態の変化については全体の75.0%は「なし」と回答し、「ある」と回答した方は25.0%でした。

# Q1で「ある」を回答した方

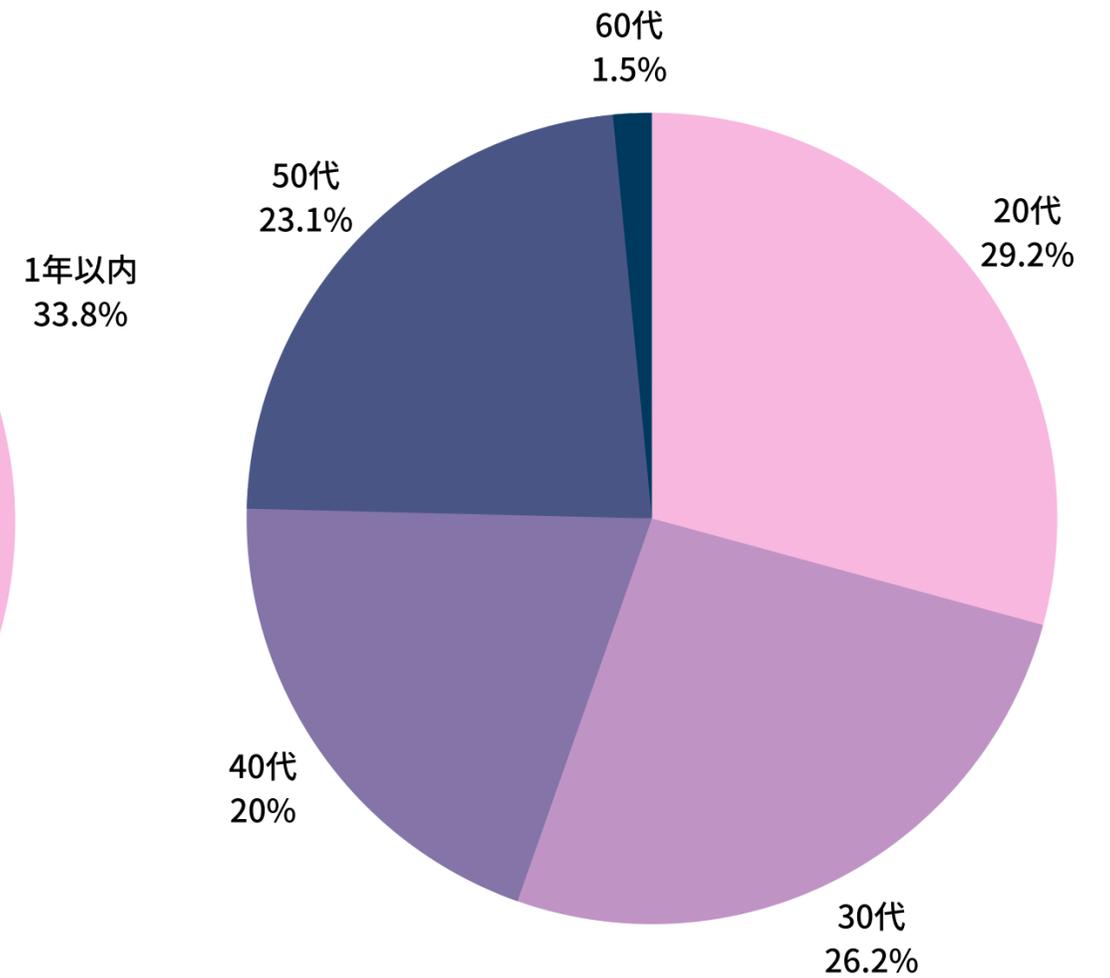
## 1-1 雇用形態



## 1-2 勤続年数



## 1-3 年齢

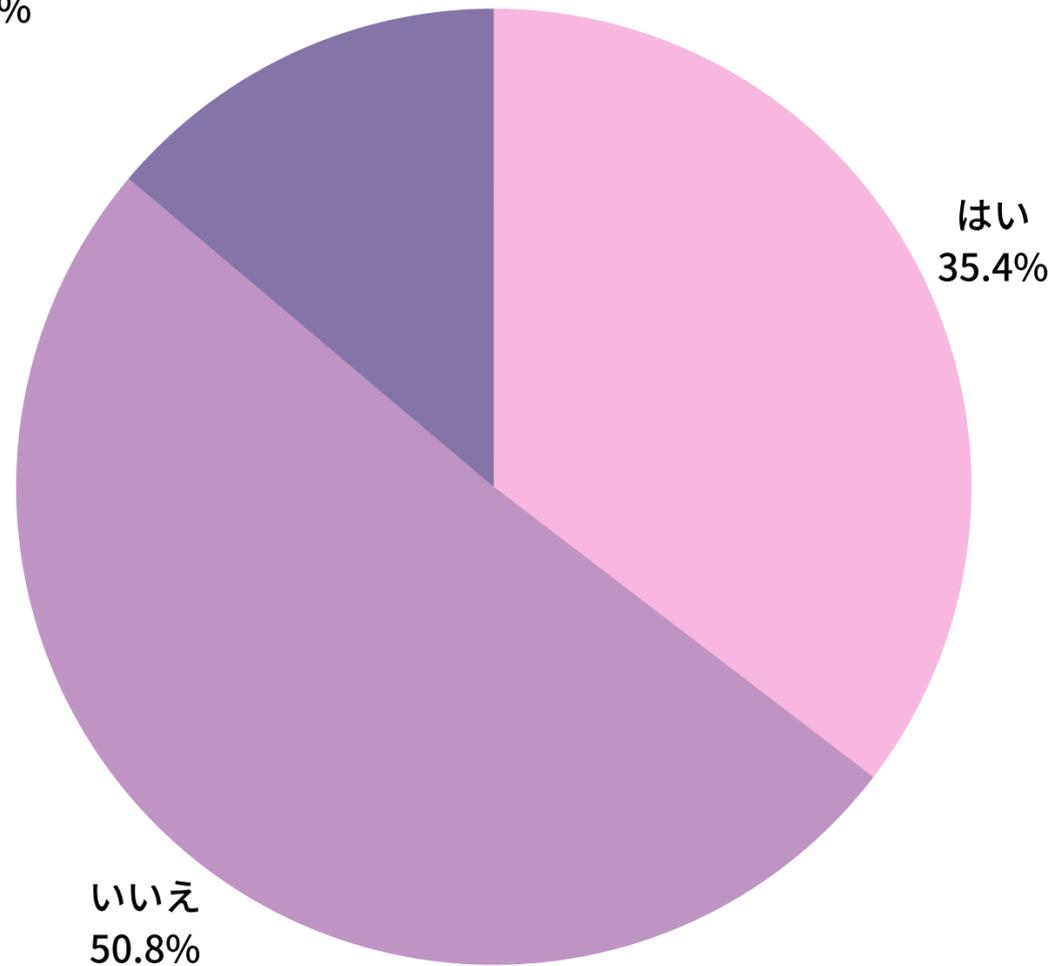


回答者のうち20代～30代が半数を占めました。また、勤続年数は3年以内の方が、全体の6割を占め  
コロナ禍における勤続形態に影響を受けている女性は若い世代の回答が多くあったことが分かりました

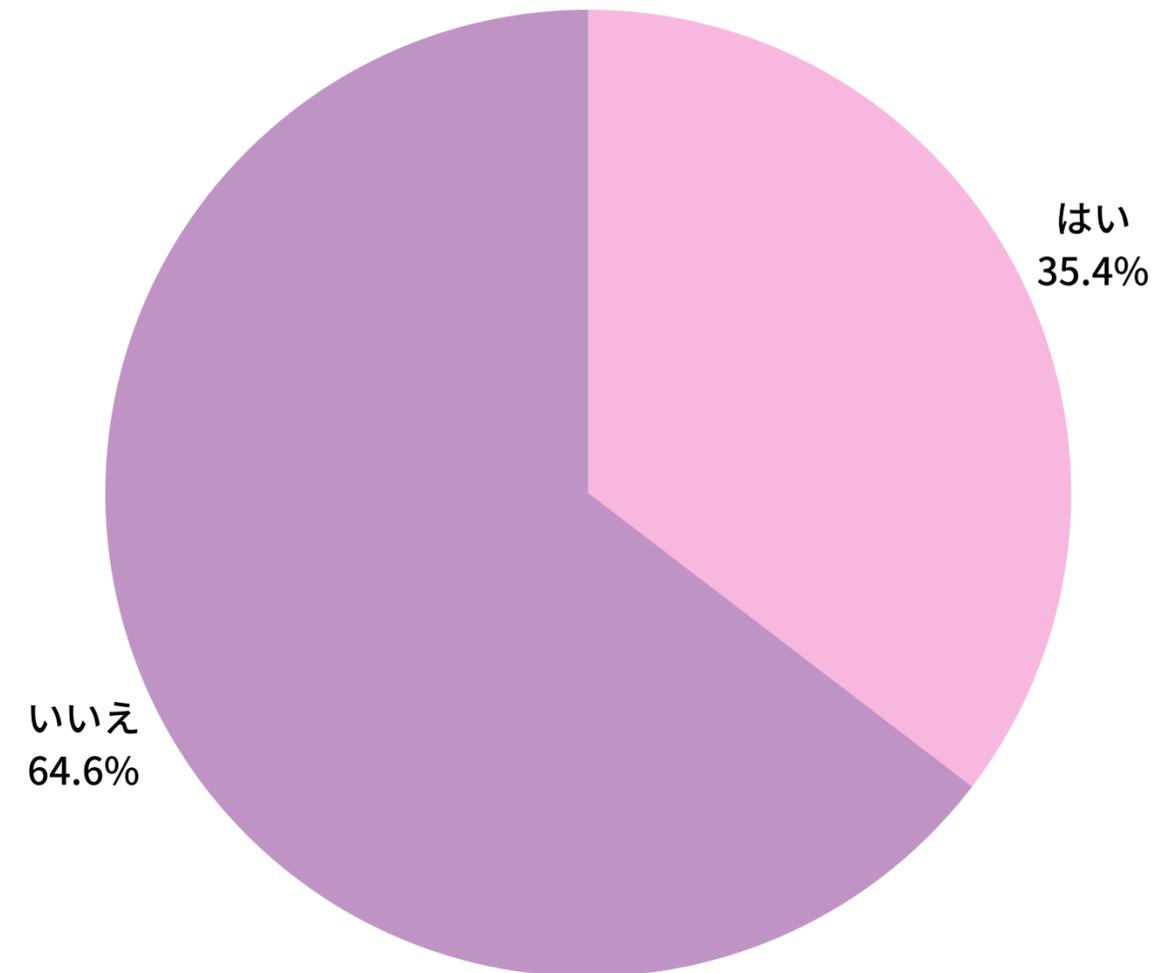
# Q1で「ある」を回答した方

## 1-4 結婚の有無

離婚済みもしくはシングルマザー  
13.8%



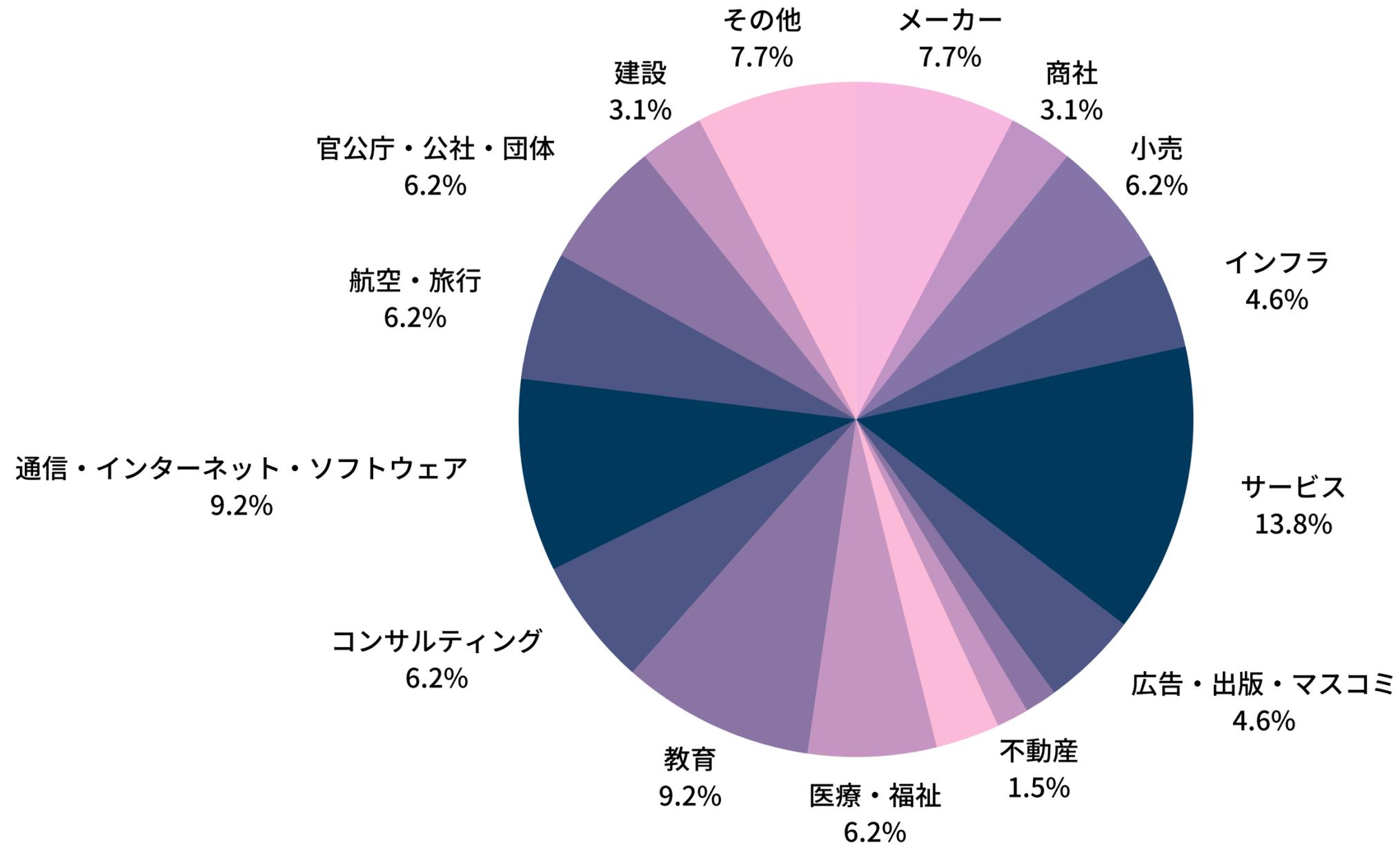
## 1-5 子供の有無



結婚されている方が全体の4割、子供がいる方は全体の3割でした。  
若い世代の働く女性で家庭と両立している方が多くいることが分かります。

# Q1で「ある」を回答した方

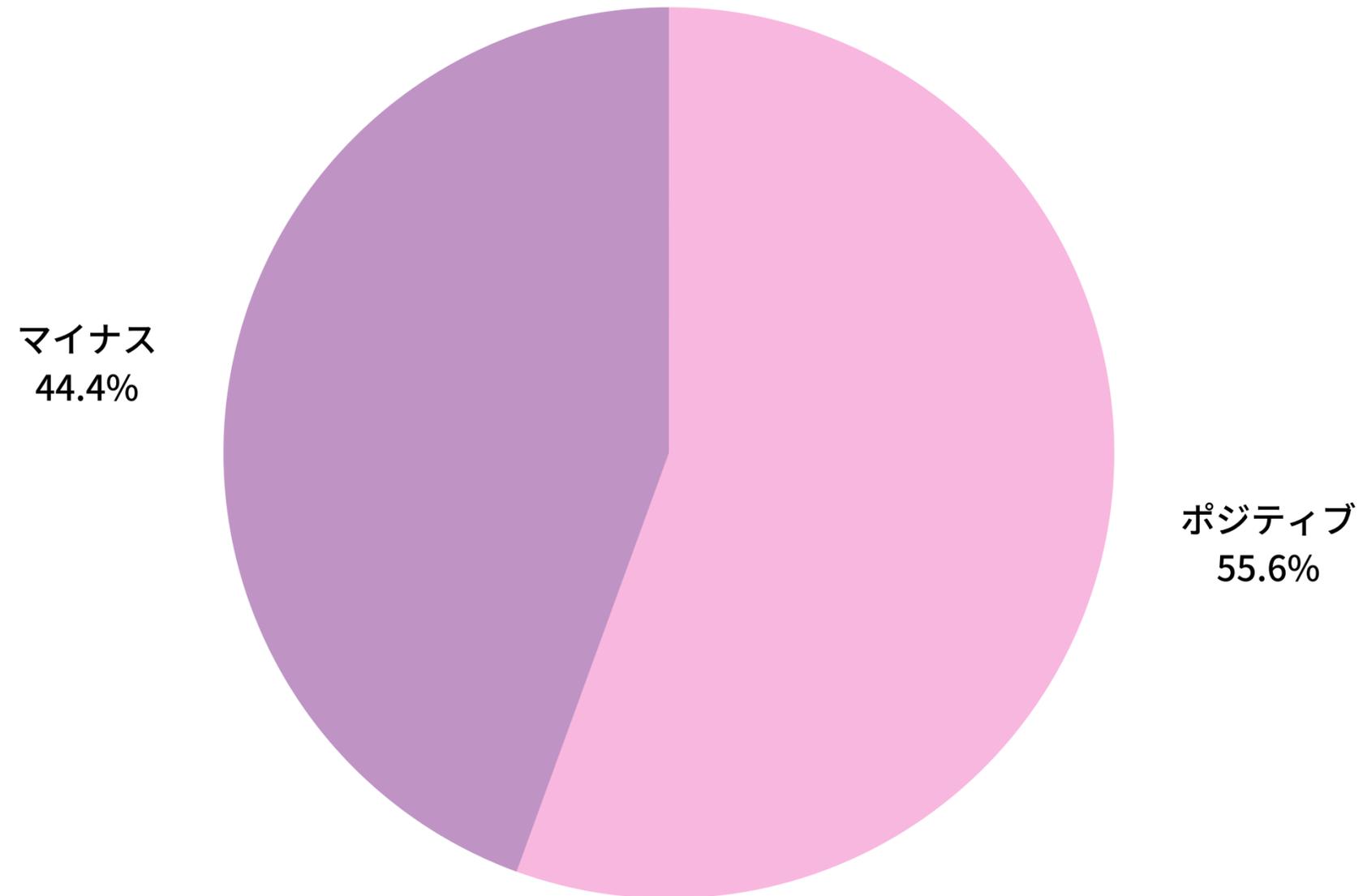
## 1-6 お勤めの業界



勤め先の業界ではサービス産業が多く  
次いで教育業界、通信インターネット業界という回答となりました。

# Q1で「ある」を回答した方

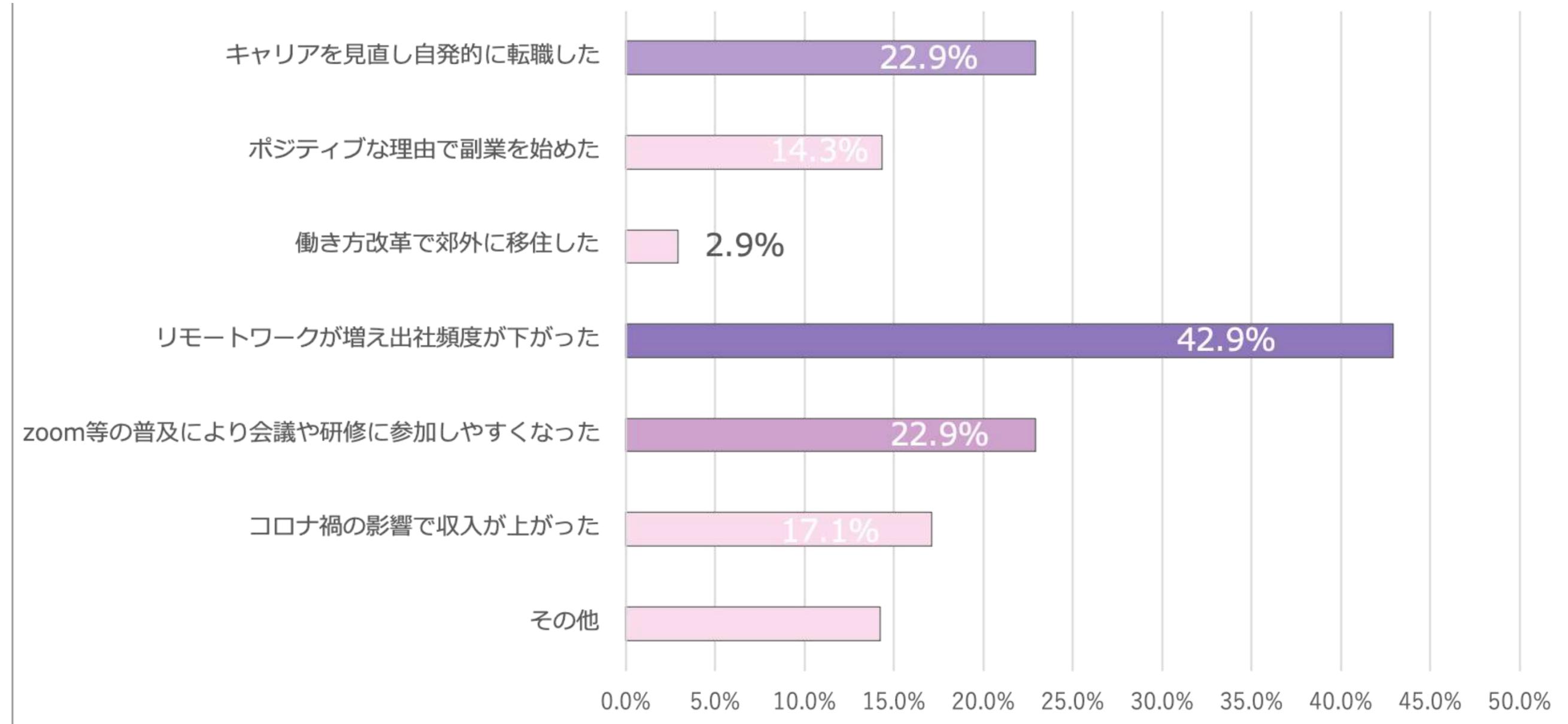
1-7 雇用形態の変化をどう受けとめていますか



コロナ禍が影響する雇用変化が「ある」と回答した中で、状況をポジティブに受け止めている方が53.8%とネガティブを上回り過半数占める結果となりました

# 1-7で「ポジティブ」と回答した方

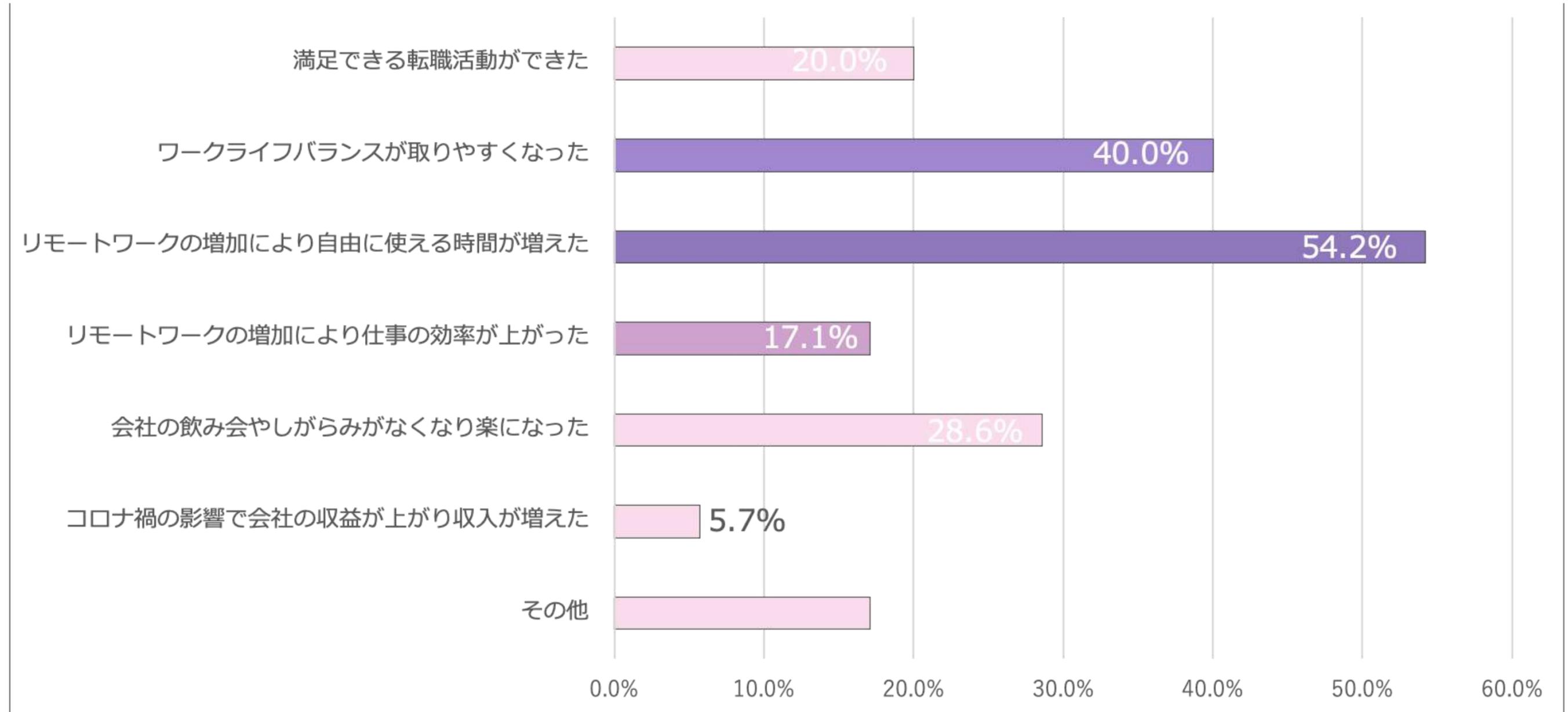
## 雇用変化の具体的な内容（複数回答）



リモートワークにより出勤頻度が下がったことを肯定的に受け止めている人は4割でした

# 1-7で「ポジティブ」と回答した方

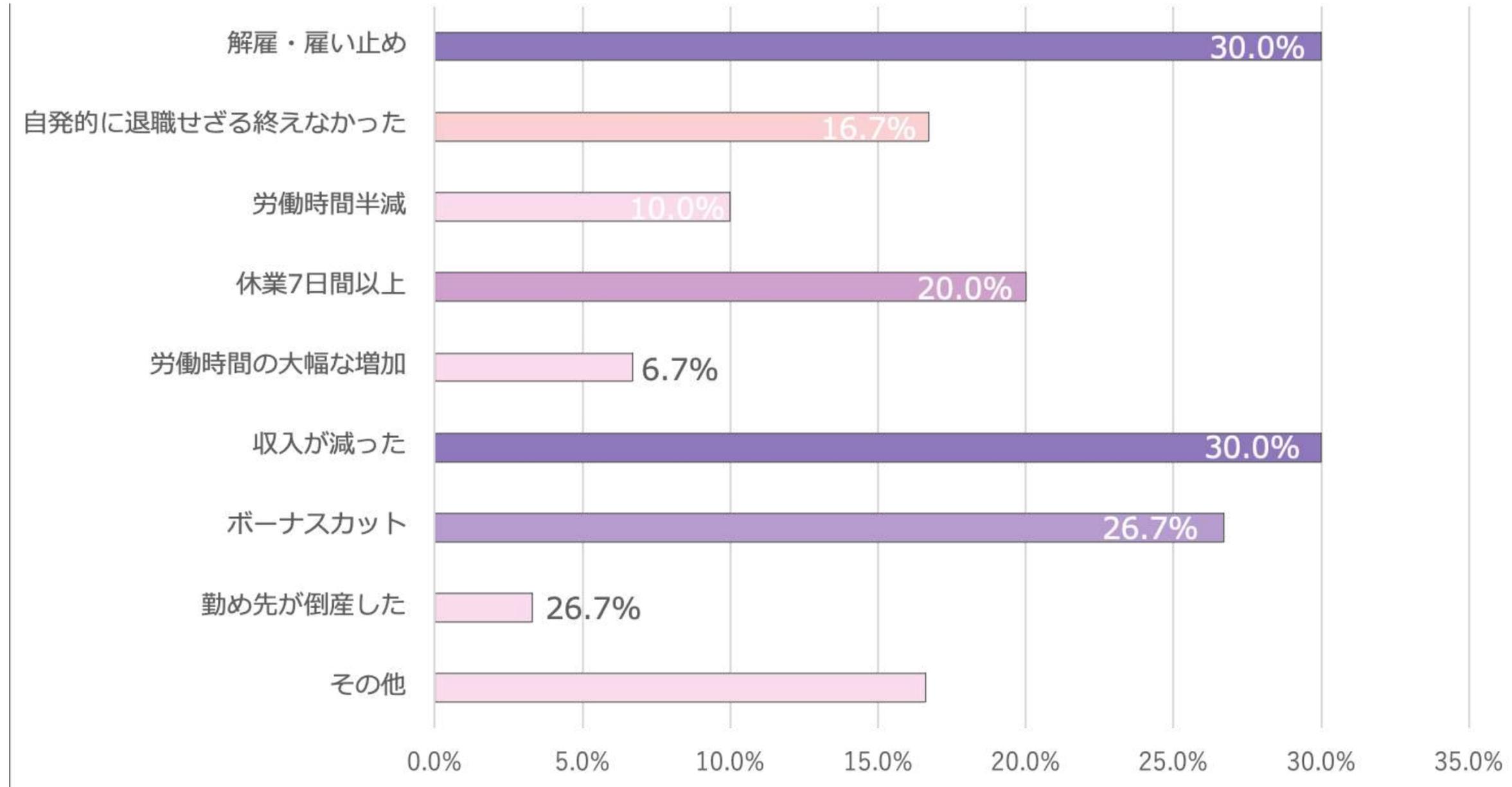
## 雇用変化をポジティブにとらえている理由（複数回答）



リモートワークが主流となりワークライフバランスが取りやすくなったことから、仕事の効率が高まったことや自分時間を取りやすくなったという回答が多くみられました。

# 1-7で「ネガティブ」と回答した方

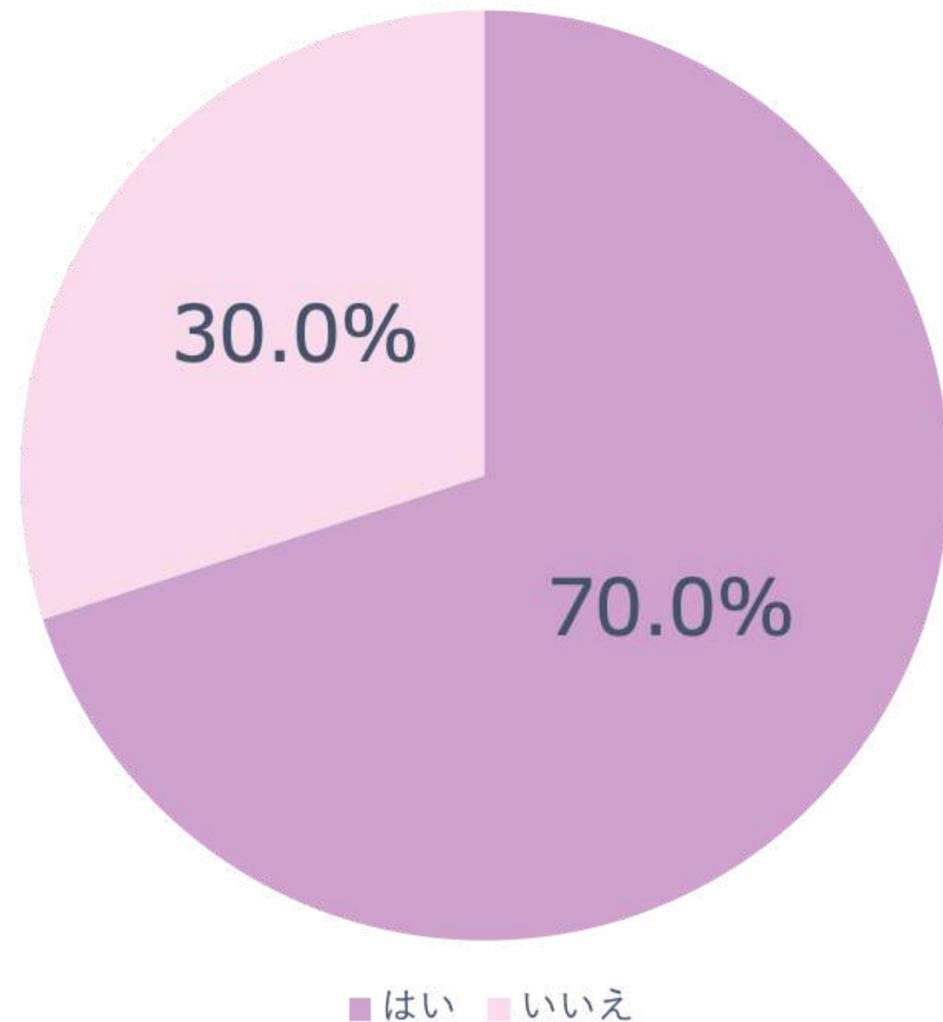
## 雇用変化の具体的な内容（複数回答）



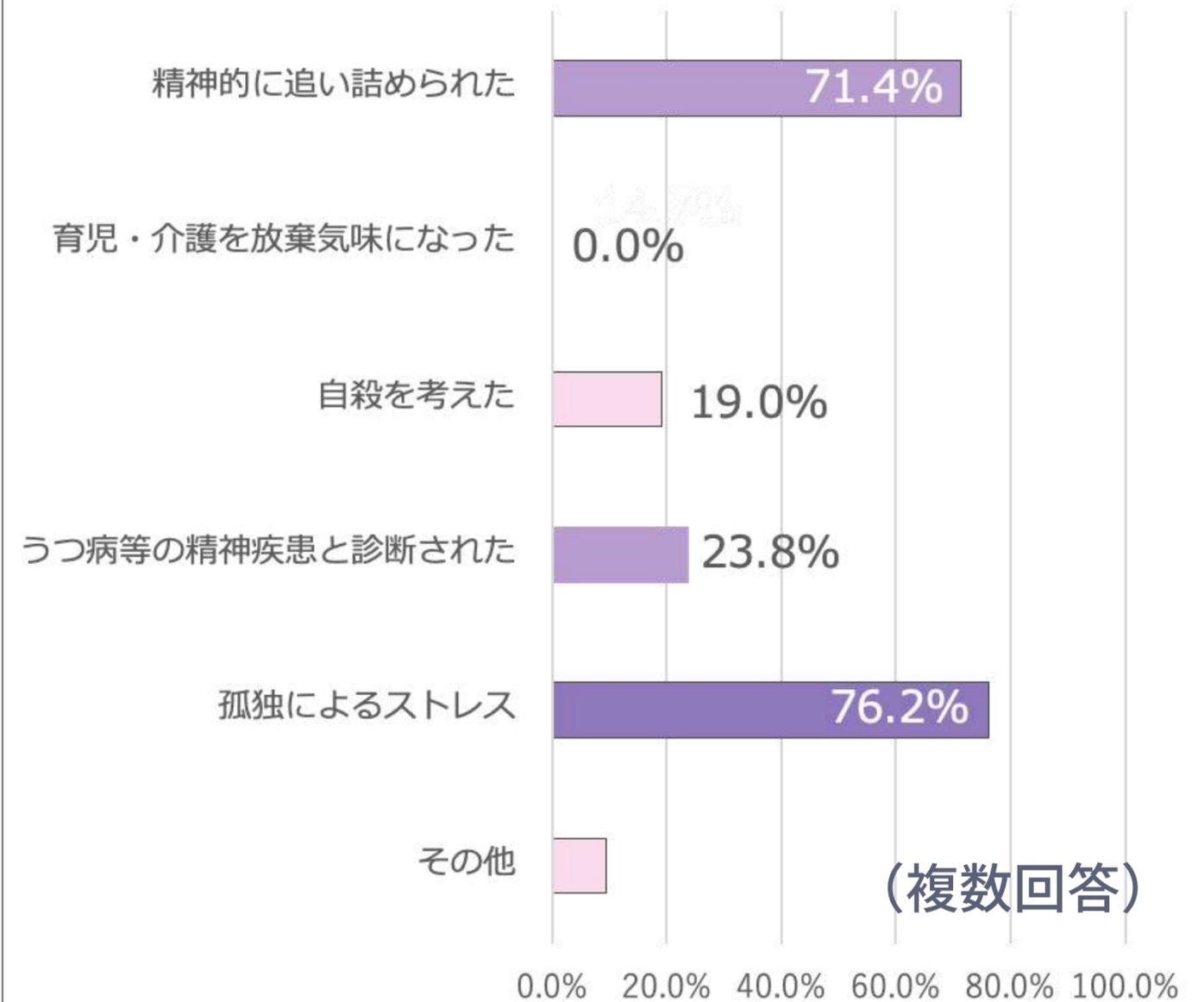
雇用変化をネガティブに捉えた回答者の具体的な理由として、解雇や雇い止め30%、自発的に退職せざるを得なかった16.7%と、離職に至ったケースが約半数の46.7%を締める結果となりました。

# 1-7で「ネガティブ」と回答した方

雇用変化によるメンタルヘルスへの影響はありましたか？



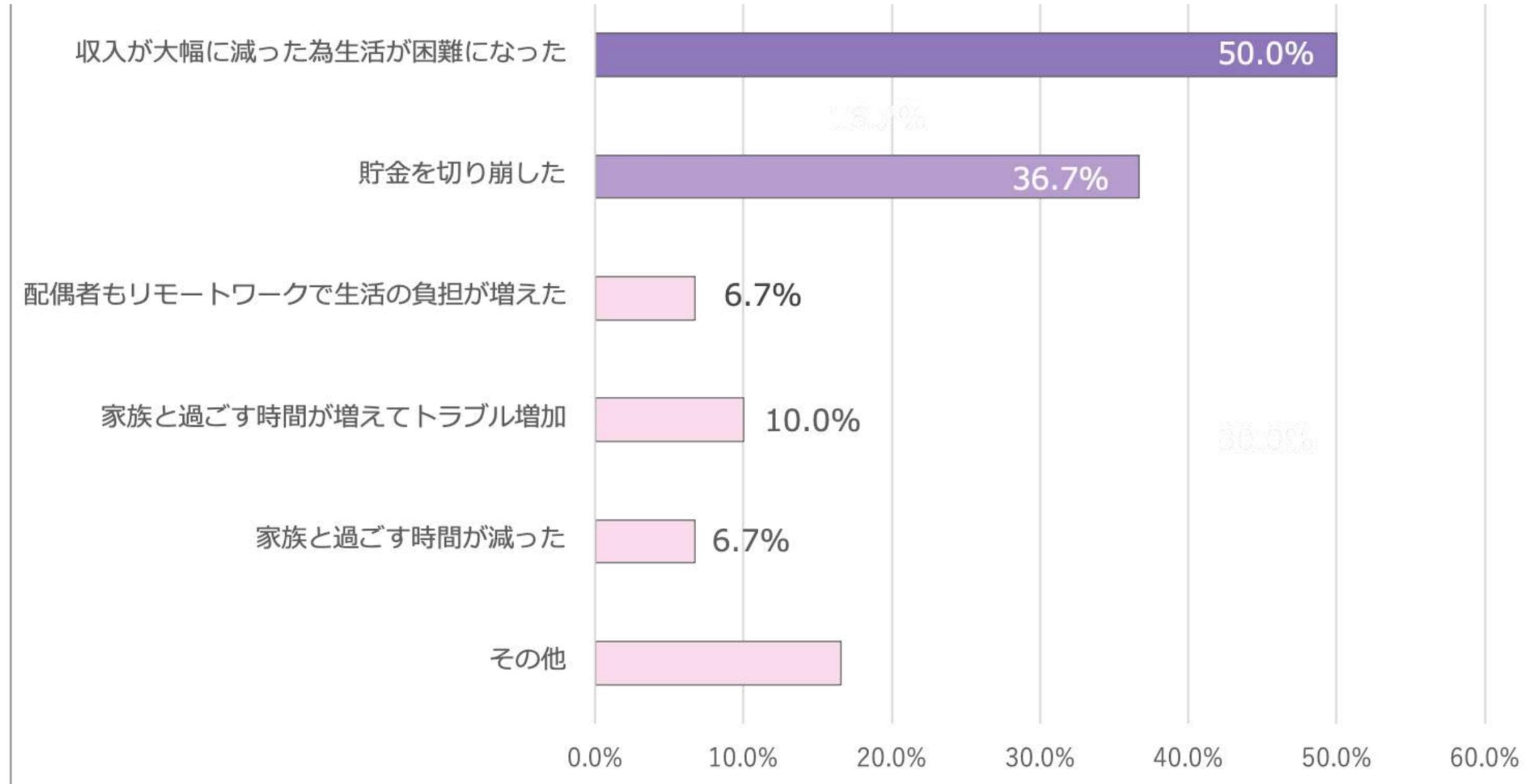
具体的なメンタルヘルスへの影響  
ネガティブ回答



70.0%がメンタルヘルスへの影響があると回答し、精神的に追い詰められた71.4%で鬱等の精神疾患と診断されるなど深刻な回答も目立ちました。

# 1-7で「ネガティブ」と回答した方

## 雇用変化によって生じた具体的な影響（複数回答）



収入が大幅に減った人が5割弱に上り、金銭面で苦勞する人が多数いることが分かりました

# 回答者の自由記述でのコメント



コロナ禍でリモートワークが主流になったことで、より鮮明になったのは成果主義だと思います。男女関係なく評価されるジェンダーレスが進むことを期待しています。



キャリアを見つめ直す良いきっかけになり、転職をしたおかげで自由になる時間が増えて、移住ワークの選択肢が増えました。



コロナが影響した解雇が多数出て、私は給与を一方向的に削減されて貯金を切り崩しながらの生活になりかなり苦しくなりました。現在転職を考えていますがうまくいくか不安です。



産休から復帰する際にフルタイムで話を進めていましたが、コロナ禍による業績不審で時短勤務になりました。その後、時短だと職責をカバーできていないという理由から降格があり転職を決意しました。

# 調査まとめ

昨今ジェンダーレスについて取り上げられる機会が多くなりましたが、今回の調査では少なくともコロナが影響した解雇や雇い止めがあり、それが原因と見られるメンタルヘルスへの影響がある回答が多く目立ちました。そんな中、コロナ禍で自身のキャリアを見つめ直すきっかけになり満足のいく転職ができたことや、リモートワークが主流となってワークライフバランスが取りやすくなったなど、ポジティブな意見も多く見られ、働く女性のコロナ禍との関連性がよくも悪くも影響があることがわかりました。

「個が活躍する社会を想像する」をビジョンに掲げるライボでは、働く女性のより良い環境づくりが進み、ジェンダーレスな社会の浸透を願い、今後も働く女性についてのアンケート調査などを実施していくことで、貢献し、ビジョン実現を目指してまいります。